

# 付 録

# 目 次

令和2年度 行事計画表	C-1
専攻科に関する規則	C-2
特別実験一覧	C-7
特別研究テーマ一覧	C-8
インターンシップに関する手続き	C-10
進路に関する手続き	C-16
令和2年度 専攻科授業担当者	C-24

令和2年度 本 科 生 お よ び 専 攻 科 生 行 事 計 画 表

和歌山工業高等専門学校

4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3	
本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科
水		金 閉寮	4	月	7	12	火	土		1	日	木		1	日	金 元日	8	1	月	14	15	月	1
木		土		火	8	12	水		2	金		2	金		月	土	8	2	火	14	15	火	2
金	入学式・入寮式(閉寮)	日 憲法記念日		水	8	12	木	15 成績メロ		3	土		3	土	火 文化の日	9	3	日	水	14	15	水 成績メロ	3
土		月 みのりの日		木	8	12	金		4	日 閉寮		4	日 閉寮		水	5	4	月 一斉休業	木	14	15	木	4
日		火 こどもの日		金	8	12	土		5	月	1	5	土	5	木	5	5	火	金	14	15	金	5
月	始業式・健康診断	水 開寮		土	8	12	日		6	土	1	1	金	5 午前授業・5 午後授業	金	5	6	水 開寮	土			土	6
火	1	1	木	5	日	13	金	ガールズKOSENスライ		7	水	1	1	土 高専祭	月	8	7	木	11	12	日	7	
水	1	1	金	水曜授業	4	13	土	オープンキャンパス		8	木	1	1	日 高専祭	火	9	8	金	11	12	月	8	
木	1	1	土			13	日			9	金	1	1	月 高専祭後 5 午後授業	水	9	9	土 学校長推薦入試(登校禁止)	火	9	9	火	9
金	1	1	日			13	月			10	土			火	10	5	5	木	10	10	日	10	
土		月 授業参観	4	月	9	11	土	火一斉休業		11	日			水	6	6	6	金	10	11	月 成人の日	木	11
日		火 授業参観	5	火	9	11	日	水一斉休業		12	月	2	2	土	6	6	6	土	12	12	火	12	金
月	1	1	水 授業参観	5	水	13	月	木一斉休業		13	火	2	2	日	6	6	6	日	13	13	水	13	土
火	2	2	木 授業参観	6	木	14	火	金一斉休業		14	水	2	2	土	6	6	6	月	14	14	木	14	日
水	2	2	金 授業参観	5	金	14	水			15	木	2	2	日	6	6	6	火	15	15	金	15	土
木	2	2	土			14	木			16	金	2	2	月	6	6	6	水	16	16	土	16	日
金	2	2	日			14	金			17	土	2	2	火	6	6	6	木	17	17	日	17	月
土		月	5	月	10	10	土			18	日			火	6	6	6	金	18	18	月	18	火
日		火	6	火	10	10	日			19	月	3	3	水	6	6	6	土	19	19	火	19	水
月		水	6	水	10	10	月			20	火	3	3	木	6	6	6	日	20	20	水	20	木
火	3	3	木 体育大会			15	火			21	水	3	3	金	6	6	6	月	21	21	木	21	金
水	3	3	金			15	水			22	木	3	3	土	6	6	6	火	22	22	金	22	土
木	3	3	土			15	木			23	金	3	3	日	6	6	6	水	23	23	土	23	日
金	3	3	日			15	金			24	土	3	3	月	6	6	6	木	24	24	日	24	月
土		月	6			15	土			25	日			火	6	6	6	金	25	25	月	25	火
日		火	7			15	日			26	月	4	4	水	6	6	6	土	26	26	火	26	水
月	3	3	水			15	月			27	火	4	4	木	6	6	6	日	27	27	水	27	木
火	4	4	木			15	火			28	水	4	4	金	6	6	6	月	28	28	木	28	金
水	4	4	金			15	水			29	木	4	4	土	6	6	6	火	29	29	金	29	土
木	4	4	土			15	木			30	金	4	4	日	6	6	6	水	30	30	土	30	日
金	4	4	日			15	金			31	土			月	6	6	6	木	31	31	日	31	月
土		月				15	土							火				金					
日		火				15	日							水				土					
月		水				15	月							木				日					
火		木				15	火							金				月					
水		金				15	水							土				火					
木		土				15	木							日				水					
金		日				15	金							月				木					
土		月				15	土							火				金					
日		火				15	日							水				土					
月		水				15	月							木				日					
火		木				15	火							金				月					
水		金				15	水							土				火					
木		土				15	木							日				水					
金		日				15	金							月				木					
土		月				15	土							火				金					
日		火				15	日							水				土					
月		水				15	月							木				日					
火		木				15	火							金				月					
水		金				15	水							土				火					
木		土				15	木							日				水					
金		日				15	金							月				木					
土		月				15	土							火				金					
日		火				15	日							水				土					
月		水				15	月							木				日					
火		木				15	火							金				月					
水		金				15	水							土				火					
木		土				15	木							日				水					
金		日				15	金							月				木					
土		月				15	土							火				金					
日		火				15	日							水				土					
月		水				15	月							木				日					
火		木				15	火							金				月					
水		金				15	水							土				火					
木		土				15	木							日				水					
金		日				15	金							月				木					
土		月				15	土							火				金					
日		火				15	日							水				土					
月		水				15	月							木				日					
火		木				15	火							金				月					
水		金				15	水							土				火					
木		土				15	木							日				水					
金		日				15	金							月				木					
土		月				15	土							火				金					
日		火				15	日							水				土					
月		水				15	月							木				日					
火		木				15	火							金	</								

## 和歌山工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則

制 定 平成14年4月1日  
最近改正 平成30年4月1日

(趣旨)

**第1条** 和歌山工業高等専門学校(以下「本校」という。)学則第46条第2項及び第49条の規定に基づき、専攻科の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了については、この規則の定めるところによる。

(授業)

**第2条** 授業の1単位時間は、標準60分とする。

2 1単位の履修時間は、授業及び教室外での学習をあわせて45単位時間とし、次の基準により単位数を計算するものとする。

- 一 講義については、15単位時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については、30単位時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実習及び実験については、45単位時間の授業をもって1単位とする。

(履修方法)

**第3条** 授業科目の履修に当たっては、年度当初に、別に定める履修届を提出しなければならない。

(試験)

**第4条** 試験は定期試験及び追試験とする。

- 2 定期試験は、前期末及び学期末に実施する。
- 3 追試験は、病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受けられなかった者に対して実施する。

(成績評価)

**第5条** 成績は、授業科目ごとに前条に規定する試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価する。

- 2 成績の評点及び評定は次のとおりとする。

評 点	100～80	79～70	69～60	59以下
評 定	A	B	C	D

(単位の設定)

**第6条** 前条第2項の規定に基づき、A、B及びCに評価された科目については、当該授業科目の単位を履修したものと認定する。

(再履修)

**第7条** 単位を認定されなかった授業科目は、原則として次年度において再履修するものとする。

(修了に必要な要件)

**第8条** 専攻科の修了認定は、専攻科成績判定会議で審議の上、校長が行う。

- 2 専攻科の修了は、学則第47条に規定するもののほか、次の区分による単位を修得し、かつ、原則として、次の各号の要件を満たしていなければならない。

専攻	科目	専 門 科 目		合 計
		一般科目	専門共通科目	
メカトロニクス工学専攻	6単位以上	12単位以上	36単位以上	62単位以上
エコシステム工学専攻	6単位以上	12単位以上	36単位以上	62単位以上

- 一 学位取得のための申請受付時の手続きが完了していること。
- 二 地域環境デザイン工学教育プログラム(以下同プログラムという。)において124単位以上修得していること。
- 三 同プログラムにおいて別に定める達成度評価基準に合格していること。

(他の専攻で履修した単位認定)

**第9条** 本校の他専攻で開設されている選択科目の履修を希望する者は、あらかじめ指導教員の許可を得たうえで、受講届を提出しなければならない。これにより修得した単位は、8単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、その単位の修得として認定することができる。

(他の教育施設等での学修等及び単位認定)

**第10条** 大学及び他の高等専門学校の専攻科等(以下「大学等」という。)で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可を得たうえで、受講届を提出しなければならない。これにより修得した単位は、16単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、その単位の修得として認定することができる。ただし、これにより修得した一般科目の単位は2単位を限度とし、専門科目の単位は14単位を限度とする。

- 2 前項以外で、単位を認定する場合の要項は別に定める。

(雑則)

**第11条** この規定に定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(省略)

## 専攻科で開設する選択科目の履修届、取下げに関する取扱い

制 定 平成16年9月30日

選択科目の履修については、次の手続をとること。

1. 「選択科目履修届」を学生課教務係に所定の時期までに提出すること。
2. 「選択科目履修届」を提出した授業科目の履修を年度途中で取りやめる場合、「履修取下げ願」(別記様式)を、科目担当教員を経て前学期については5月末までに、後学期については11月末までに学生課教務係に提出することにより、履修を取りやめることができる。

## 和歌山工業高等専門学校専攻科インターンシップの履修に関する規則

制 定 平成16年4月1日

(目的)

第1条 この規則は、和歌山工業高等専門学校専攻科で開設するインターンシップの履修に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(インターンシップ機関の選定)

第2条 学生がインターンシップを履修する国若しくは地方公共団体の機関又は企業等の法人(以下「インターンシップ機関」という。)は、専攻科委員会の議を経て、校長が選定する。

(申込書)

第3条 インターンシップを履修する学生(以下「インターンシップ生」という。)は、別記様式の申込書を、校長を経てインターンシップ機関に提出しなければならない。

- 2 前項の申込書は、校長が認めるときは、インターンシップ機関所定の申込書をもって替えることができる。

(履修)

第4条 インターンシップ生は、インターンシップ機関の定める諸規則及びインターンシップ機関の責任者(以下「機関責任者」という。)の指示に従って履修しなければならない。

(報告書)

第5条 インターンシップ生は、別に定める報告書を、機関責任者の認印を得て専攻科長に提出しなければならない。

(履修時間)

第6条 インターンシップの履修時間は、インターンシップ機関において定める時間又は機関責任者の指定する時間とする。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、インターンシップの履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(省略)

## 大学及び他の高等専門学校専攻科等で開設されている授業科目以外での単位認定に関する取扱要項

制 定 平成17年12月7日

(趣旨)

第1 和歌山工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則第10条第2項の規定に基づき、大学及び他の高等専門学校専攻科等(以下「大学等」という。)で開設されている授業科目以外での学修について単位を認定する場合の要項を定める。

(定義)

第2 大学等で開設されている授業科目以外での学修とは、次の学修をいう。

TOEICテストによる学修

(単位認定)

第3 第2に規定する学修により、和歌山工業高等専門学校専攻科で単位の認定を受けようとするときは、別記様式による大学等で開設されている授業科目以外における学修単位申請書に、認定証等の写を添え、専攻科長を経て、校長に提出しなければならない。

- 2 単位の認定は、専攻科委員会の議を経て校長が行う。
- 3 第2に規定する学修における認定単位数の限度等は、別表に定めるとおりとする。
- 4 認定された単位は、大学等で開設されている授業科目以外における学修単位申請書が受理された年度の単位とする。

附 則

(省略)

別表

技能審査の種類	認定単位数
TOEIC (スコア470点以上)	2単位
TOEIC (スコア730点以上)	4単位

備考 既に単位の認定を受けている者がより上位のスコアを認定された場合は、表中の認定されたスコアの認定単位数から既に認定を受けている単位数を差し引いた単位数を当該技能審査の種類における認定単位数とする。

# 和歌山工業高等専門学校地域環境デザイン工学教育プログラム履修規則

制 定 平成17年3月25日

最近改正 平成30年4月 1日

(目的)

**第1条** 和歌山工業高等専門学校(以下「本校」という。)における地域環境デザイン工学教育プログラム(以下「本教育プログラム」という。)の教育課程の履修及び修了認定は、この規則の定めるところによる。

(地域環境デザイン工学)

**第2条** 地域環境デザイン工学は、別表1に定める科目によって構成する。

(履修者の決定)

**第3条** 本教育プログラムの履修者は、本校専攻科への入学をもって本教育プログラム履修者に決定する。

(学習・教育目標)

**第4条** 専攻科は、学則第40条の目的を実現するため、別表2に定める学習・教育目標の達成に努めなければならない。

(プログラム構成)

**第5条** 本教育プログラムは、本校の準学士課程第4・5学年と専攻科課程の4年間とする。なお、授業科目及び単位数は和歌山工業高等専門学校学則別表第1から別表第3の教育課程に示すとおりとする。

(認定対象学生)

**第6条** 本教育プログラムの認定対象学生は、第3条に定める専攻科学生全員とする。

2 本校以外の高等専門学校及び大学等(以下「他の高等教育機関等」という。)から本教育プログラムに入学した学生に係る学修については、別に定める取扱いに基づいて、他の高等教育機関等で修得した単位を認定する。

(修了要件)

**第7条** 本教育プログラムの修了要件は次の各号とし、全てを満たした者に修了証書を授与する。

- 一 専攻科の教育課程を修了していること。
- 二 学士の学位を取得していること。
- 三 本教育プログラムにおいて124単位以上修得していること。
- 四 別に定める達成度評価基準に合格していること。

(修了認定)

**第8条** 本教育プログラムの修了認定は、専攻科成績判定会で審議のうえ、校長が行う。

2 前条各号に掲げる修了要件のうち、同条第2号のみを満たすことのできなかった者が、専攻科修了後学士の学位を取得し、専攻科修了後2年以内に修了認定申請書(様式1)を提出した場合は、本教育プログラムの修了を認定し、修了証書を授与する。

- 一 修了認定日は、学位を取得した日とする。
- 二 本項により難しい場合は、専攻科成績判定会において審議し、校長が決定する。

附 則

(省略)

## 和歌山工業高等専門学校以外の高等教育機関で修得した単位及び学修の 地域環境デザイン工学教育プログラムにおける取扱い

制 定 平成17年3月25日  
最近改正 平成30年4月 1日

(趣旨)

- 1 和歌山工業高等専門学校(以下「本校」という。)専攻科に入学した者の、本校以外の高等専門学校及び大学等(以下「他の高等教育機関等」という。)で修得した単位及び学修について、地域環境デザイン工学教育プログラム(以下「本教育プログラム」という。)の修了に関する取扱いを定める。  
(対象とする単位及び学修)
- 2 本取扱いが対象とする単位及び学修とは、次のいずれかに該当するものをいう。
  - 一 本校専攻科入学以前に、他の高等教育機関等に在籍した者が、当該高等教育機関等で修得した単位
  - 二 本校の準学士課程に在籍した者が、本校学則第14条の2及び第14条の3の規程に基づき、他の高等教育機関等において修得した単位及び学修、その他文部科学大臣が別に定める学修
  - 三 本校専攻科入学以前に他の高等教育機関等に在籍した者が、当該高等教育機関等以外の高等教育機関等において修得した単位及び学修、その他文部科学大臣が定める学修(申請)
- 3 第2項に定める単位及び学修について、本教育プログラムの修了に関わる単位として認定を受けようとする者(以下「申請者」という。)は、本校専攻科入学後直ちに本教育プログラム単位認定申請書(様式1)を、学生課教務係に提出しなければならない。  
(認定)
- 4 第3項により申請があった場合は、次の各号により専攻科委員会で審査し、運営委員会の議を経て、校長が本教育プログラムの修了に関わる単位及び学修として認定する。
  - 一 日本技術者教育認定機構(以下「JABEE」という。)の認定を受けた他の高等教育機関等において修得した単位については、当該科目の成績評価及びシラバスに基づき審査を行う。
  - 二 JABEEの認定を受けていない他の高等教育機関等において修得した単位については、前号に定める要件の他、当該高等教育機関等の成績評価基準に関する資料等により審査を行うか、若しくは本校の行う試験の成績に基づいて審査を行う。(通知)
- 5 校長は、上記により、本教育プログラムの修了に関わる単位及び学修を認定した場合は、認定通知書(様式2)により、専攻科長を経て申請者に通知するものとする。

附 則

(省略)

# 和歌山工業高等専門学校専攻科学生に係る地域環境デザイン工学教育プログラムの定める水準に達していない科目の取扱い

制 定 平成17年3月25日  
最近改正 平成30年4月 1日

(趣旨)

1 この取扱いは、和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）専攻科に入学した者の、地域環境デザイン工学教育プログラム（以下「本教育プログラム」という。）の「水準達成を要する科目」について水準を達成することを目的として、以下のとおり定める。

(水準達成を要する科目)

2 「水準達成を要する科目」とは、本教育プログラムの認定対象科目のうち、次のいずれかに該当するものをいう。  
一 本教育プログラム履修者が、本校の専攻科入学以前に本校又は他の高等教育機関において単位を修得していない科目

二 本教育プログラム履修者が、本校の専攻科入学以前に本校又は他の高等教育機関において単位を修得した科目で、本教育プログラムの定める学習・教育目標の水準を達成していることが確認できない科目

3 「水準達成を要する科目」は、本校専攻科入学の際に提出された成績証明書及びシラバスに基づき専攻科委員会において審議し、運営委員会の議を経て校長が決定する。

(プログラム単位)

4 プログラム単位とは、本教育プログラムの修了に必要な単位であり、本教育プログラムの水準達成を要する科目の履修によってのみ修得できるものであって、学則第13条並びに第46条に定める本校教育課程の単位とは異なる。

(本教育プログラム水準達成の証明)

5 本教育プログラム履修者が第2項第1号に定める科目を履修し、本教育プログラムの設定する学力水準に達した場合には、「地域環境デザイン工学教育プログラム履修証明書」(様式1)によって証明する。

6 本教育プログラム履修者が第2項第2号に掲げる科目を履修し、本教育プログラムの設定する水準に達した場合には、「地域環境デザイン工学教育プログラム水準達成証明書」(様式2)によって証明する。

(プログラム単位の証明)

7 プログラム単位数は、「地域環境デザイン工学教育プログラム履修証明書」並びに「地域環境デザイン工学教育プログラム水準達成証明書」によって証明する。

(履修及び補習指導)

8 第2項第1号又は第2項第2号に定める科目の水準を達成しようとする者は「水準達成を要する科目の履修申請書」(様式3)又は「水準達成を要する科目の補習申請書」(様式4)を学生課教務係に提出するものとする。

9 履修又は補習担当教員（以下「当該科目担当教員」という。）は、専攻科委員会で協議のうえ、運営委員会の議を経て校長が指名する。

(達成度の証明)

10 第2項第1号に該当する科目について、本校の準学士課程における本教育プログラムの認定科目を履修し、本教育プログラムの水準が達成された場合、当該科目担当教員は「地域環境デザイン工学教育プログラム履修証明書」(様式1)を学生課教務係に提出するものとする。

11 第2項第2号に該当する科目について、当該科目担当教員は1単位につき90分以上の補習を実施し、試験又はレポート等により水準達成度を評価する。

本教育プログラム水準が達成されたと認められる場合、当該科目担当教員は「地域環境デザイン工学教育プログラム水準達成証明書」(様式2)を学生課教務係に提出するものとする。

(履修及び補習指導内容等の審査及び記録の保存)

12 専攻科委員会は、第5項及び第6項に定めた証明書に基づいて、履修、補習指導及び達成度の評価について審査し、その結果を運営委員会に報告する。なお、これらの証明書は5年間保存するものとする。

(水準達成及びプログラム単位の認定)

13 水準達成及びプログラム単位の認定は、第5項及び第6項に定めた証明書に基づき、専攻科委員会で審査し、運営委員会の議を経て、校長が認定する。

14 校長は、認定結果を本教育プログラムの修了に係る水準達成及びプログラム単位として「地域環境デザイン工学教育プログラム水準達成認定通知書」(様式5)により、専攻科長を経て申請者に通知する。

附 則

(省略)

## 令和2年度専攻科特別実験一覧

第1～8、11週：創造デザイン部門 第9,10,12～15週：テーマ別実験部門

開講期	実施週	研究テーマ	実験場所	担当者	学科	専攻
前期	1-8、11	公開講座開発		榎原 山東 謝 岡本	機械 電気	メカ
前期	9、10	情報システムに関する実験	専攻科棟 MM教室	謝 森	電気	
前期	12、13	力学・材料に関する実験	機械科棟1階 第1材料実験室	榎原 山東	機械	
前期	14、15	熱工学に関する実験	専攻科棟 MM教室	大村	機械	
後期	1、2	電気エネルギーの利用と制御	電気棟3F 第3セミナー室	山吹 竹下	電気	
後期	3、4	情報・制御に関する実験	専攻科棟 MM教室	村山 津田	機械	
後期	5、6	電子材料の作製と特性評価	山口研究室 MM教室	山口 直井	電気	
後期	7、8	流体工学に関する実験	専攻科棟 MM教室	早坂	機械	
後期	9、10	マルチメディアコンピューティングに関する実験	専攻科棟 MM教室	村田 岩崎	電気	
後期	11、12	設計・工作に関する研究	専攻科棟 MM教室	北澤 石橋	機械	
後期	13、14	電子回路の応用と評価	電気棟4F実験室	岡本 岡部	電気	
後期	15	まとめ	未定	副専攻科長	電気	
前期	1-8、11	公開講座開発		米光 奥野 伊勢 平野	化学 環境	
前期	9、10	熱重量分析を使った有機物含有率の測定	専攻科棟 エコ実験室	平野	環境	
前期	12、13	3Dプリンタを用いたサイエンス授業補助教材の作成	楠部研究室(Z202)	楠部	化学	
前期	14、15	生物工学的手法による生物多様性調査	専攻科棟 MM教室	デフィン	化学	
後期	1、2	振動の観測と解析	専攻科棟 MM教室	辻原	環境	
後期	3、4	生活から排出される温室効果ガスの解析	専攻科棟 MM教室	鶴巻	環境	
後期	5、6	環境微生物工学に関する実験	専攻科棟 エコ実験室A	青木	環境	
後期	7、8	環境分析化学に関する実験	専攻科棟 エコ実験室A	横田	環境	
後期	9、10	原子効率に関する実験	生物応用化学科棟 有機化学学生実験室	河地	化学	
後期	11、12	分離工学に関する実験	生物応用化学科棟3F 化学工学学生実験室 (A333)	岸本	化学	
後期	13、14	界面化学に関する実験	生物応用化学棟 物理化学実験室(A130)	西本	化学	
後期	15	まとめ	未定	副専攻科長	環境	

## 令和2年度 特別研究テーマ一覧(メカトロニクス工学専攻)

### ■ 機械工学

教員名	研究テーマ
榎原	金属材料の加工および焼鈍による強度および集合組織の変化に関する研究 炭素繊維強化熱可塑性プラスチックの融着接合手法に関する研究(R2年度2年生のみ)
津田	福祉機器やロボットなどのヒューマンインタフェースに関する研究
村山	自律移動ロボットの知能アルゴリズムに関する研究開発
山東	有限要素法を基礎とした構造解析に関する研究
大村	熱特性評価方法に関する研究
早坂	数値解析法を用いた流体力学的現象解明に関する研究
岩崎	信号処理や確率統計の手法を用いたシステムの構築と問題解決への応用

### ■ 電気電子工学

教員名	研究テーマ
謝	人工知能の手法を用いたシステムの構築と問題解決への応用
山口	薄膜太陽電池の作製に関する研究
山吹	電気設備の耐雷設計及び絶縁協調に関する研究
竹下	MHD発電機・加速機の性能解析及び実験、プラズマ応用
岡本	可視光空間通信・組込み制御及びロボットの移動制御に関する研究
岩崎	信号処理の手法を用いたシステムの構築と問題解決への応用
岡部	次世代ロボットテクノロジーに関する研究開発とその応用
直井	電気材料の作製・特性評価・物性の数値シミュレーションに関する研究
村田	仮想現実技術の構築と評価
山口・直井	半導体材料・デバイスに関する研究
山吹・岡本・竹下・岡部	メカトロニクスを応用したシステムの構築及び性能評価
謝・村田・岩崎	情報技術に関するシステムの構築と問題解決への応用

## 令和2年度 特別研究テーマ一覧(エコシステム工学専攻)

### ■ 応用化学 および 生物工学

教員名	研究テーマ
土井	コラーゲンモデルペプチドに関する研究, 生体機能性分子に関連する研究
岸本	過熱水蒸気を用いたバイオマス活性炭の調製
森田	細胞膜のモデル化とバイオセンサへの応用
奥野	植物に含まれる天然機能性成分の探索および作用機構の解明
西本	生体膜からみた生物の環境順応性に関する研究

### ■ 応用化学

教員名	研究テーマ
野村	有機機能性材料の合成とその性質に関する研究
河地	有機分子機械の合成と特性に関する研究
綱島	イオン液体の合成と応用に関する研究

### ■ 生物工学

教員名	研究テーマ
米光	生物工学に関する研究
楠部	極限環境微生物の環境適応に関する調査および殺菌向上に関する研究
デフィン	生物多様性進化ゲノム学的解析

### ■ 土木工学

教員名	研究テーマ
辻原	地震防災に関する研究
靄巻	環境負荷の小さい社会システムに関する研究
小池	津波の数値解析による減災対策に関する研究
三岩	各種産業副産物を利用したコンクリートに関する研究
山田	鋼構造物の弾塑性挙動に関する数値解析的研究
林	災害に強い地盤構造物構築のためのハード・ソフト対策に関する研究
伊勢	地域・交通マネジメント支援に関する実践的研究
平野・靄巻	水質浄化および化学分析に関する研究
青木・靄巻	生物学的な環境浄化および改善技術に関する研究
青木・林	地盤環境を対象とした生物浄化技術の開発に関する研究
横田・靄巻	環境化学分野のモニタリングに関するテーマ

## インターンシップの手続きと実施

### I. 事前調査

1. 選択科目履修目(すべての選択科目が対象)と登録票  
(1) 学生課→専攻科→学生へ用紙を配布→(2) 学生が記入し副専攻科長に提出→(3) 副専攻科長が取りまとめ捺印・学生課へ回送→(4) 学生課→専攻科→学生へ履修登録票を通知
2. インターンシップ希望調査票  
(1) 専攻科→学生へ用紙(学 D-02 インターンシップ)に記入し副専攻科長に提出→(3) 副専攻科長が取りまとめ・履修希望者と連絡方法を掌握

### II. 受入先の決定

- A. 県内企業(和歌山経営者協会経由)  
(1) 企業一覧公開&学内受付開始/副専攻科長が掲示→(2) 希望者が副専攻科長に申込(氏名・住所・生年月日・実施希望先を申告)→(3) 副専攻科長が取りまとめ学生課へ回送→(4) 学生課から経営者協会へ申込→(5) 受入学生決定・学生課から副専攻科長へ通知
  - B. 豊橋技術科学大学(体験学習)  
(1) 体験学習一覧公開&学内受付開始/副専攻科長が掲示→(2) 希望者が副専攻科長に申込(大学のHPから申込書を取得)→(3) 副専攻科長が取りまとめ学生課へ回送→(4) 学生課から大学へ申込→(5) 受入学生決定・学生課から副専攻科長へ通知
  - C. 長岡技術科学大学(オープンハウス)  
(1) オープンハウス一覧公開&学内受付開始/副専攻科長が掲示→(2) 希望者が副専攻科長に申込(学 D-10 長岡技科大オープンハウス申込書)→(3) 副専攻科長が取りまとめ学生課へ回送→(4) 学生課から大学へ申込→(5) 受入学生決定・学生課から副専攻科長へ通知
  - D. 大阪大学工学部  
(1) 学内受付開始/副専攻科長が掲示→(2) 希望者が副専攻科長に申込(メール)→(3) 副専攻科長が取りまとめ専攻科長・学生課へ回送→(4) 学生課から大学へ申込→(5) 大学から受入れ研究室一覧を受け取り、学生へ提示(メール)→(6) 学生が希望研究室を副専攻科長へ回答(メール)→(7) 副専攻科長が取りまとめ専攻科長・学生課へ回送→(8) 学生課から大学へ回答→大学が受入学生決定・学生本人に通知→(9) 以降、テーマや期間について学生が大学と連絡し合い決めていく
  - E. インターンシップ受入指定機関  
(1) 指定機関一覧公開&学内受付開始/副専攻科長が掲示→(2) 希望者が副専攻科長に申込→(3) 副専攻科長が実施希望先へ問い合わせる→(4) 受入学生決定
  - F. インターンシップ受入指定外機関(シャープなど会社独自に実施している場合を含む)  
(1) 希望者が副専攻科長にインターンシップ実施希望先(名称・問い合わせ部門・電話番号・その他要望)を報告→(2) 副専攻科長が実施希望先へ問い合わせる→(3) 受入学生決定
  - G. 北陸先端科学技術大学院大学(大学院体験入学)  
(1) 学内受付開始/副専攻科長が掲示→(2) 希望者が副専攻科長に申込(学 D-11 北陸先端体験入学申込書)→(3) 副専攻科長が取りまとめ学生課へ回送→(4) 学生課から大学へ申込→(5) 受入学生決定・学生課から副専攻科長へ通知
- ### III. 受入決定からインターンシップ開始まで
1. 受入先へ書類提出と関係書類受領  
(1) 副専攻科長から受入先を学生に通知→(2) 学生がインターンシップ申込書(学 D-03 インターンシップ申込書)や受入先指定書類を作成し副専攻科長に提出→(3) 副専攻科長が関係書類をコピー(保険用として保管)→(4) 副専攻科長が依頼状を作成し、関係書類とともに学生課へ提出→(5) 学生課から受入先へ郵送→(6) 受入先からの書類等を学生課から副専攻科長へ回送→(7) 副専攻科長から学生へ書類配布→(8) 学生が受入先へ出かけ、インターンシップ開始
  2. インターンシップ履修登録届  
(1) 学生がインターンシップ履修登録届(学 D-04 インターンシップ履修登録届)を記入し学生課へ提出。インターンシップ保険代(250 円前後)も同時に納付。
  3. インターンシップ実施証明書と実施報告書  
(1) 学生がインターンシップ実施証明書(学 D-05 インターンシップ実施証明書)と実施報告書(学 D-06 インターンシップ実施報告書)を学内 LAN 専攻科掲示板から取得する
- ### IV. インターンシップ実施
- (1) 学生が会社へインターンシップ実施証明書用紙を提出→(2) 受入先の就業規則等を遵守し、誠実にインターンシップを実施→(3) 学生が会社からインターンシップ実施証明書を受領→(4) 実施報告書を作成
- ### V. インターンシップ終了から単位認定まで
- (1) 学生がインターンシップ実施証明書と実施報告書を学生課へ提出→(2) 専攻科委員会単位認定を審議→(3) 専攻科長が成績処理

専攻科 1・2年生へ

専攻科長

## インターンシップに関する調査

インターンシップは、本校専攻科教育課程における選択科目の一つです。インターンシップを通じて、職場の様子を知り、社会人としての素養を身に付けるとともに、技術者として実践的課題にチャレンジするよい機会になることを期待しています。また、阪大のインターンシップでは大学院での研究を体験できるとともに、学修成績と総合して大学院への推薦入試を活用できます。本科目では、企業等で一定期間以上実習することで、所定の手続きを経て2単位修得できます。単位修得に必要な主な要件は、下記のとおりです。

- (1) 実習期間は2週間以上必要です（8月～9月に実施、阪大は3月）。
- (2) 実習実施証明書が実習先から発行される。
- (3) 実習報告書を提出する。

実習先は学校から提示しますが、実習受入企業数には限度があります。実習を希望する学生全員が実施できるように受入企業数を確保する必要がありますので、希望等を把握したいと考えています。そこで以下の調査に回答して下さい。なお回答書は、副専攻科長（メカトロニクス工学専攻：〇〇先生、エコシステム工学専攻：〇〇先生）に、 月 日 ( )までに提出してください。提出されない場合は、インターンシップを履修しないと見なします。以上、ご協力の程お願いいたします。

---

インターンシップに関する希望調査の回答書

クラス 学級番号 氏名

---

1. あなたは、インターンシップの履修を希望しますか？

- a. 希望する                      b. 希望しない

以下、希望すると回答した人が記入してください。

2. あなたは、インターンシップ先として、どこを希望しますか？（複数回答可）

- a. 海外企業                      b. 県内企業                      c. 県外企業  
d. 自治体                      e. 大阪大学大学院                      f. e以外の大学                      g. まだ決めていない

3. インターンシップに関連して、何か希望があれば、記入して下さい。

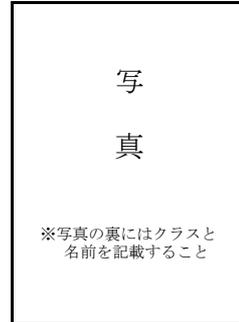
[例] 〇〇株式会社で実習したい。など

# 学外実習申込書

令和 年 月 日

実習申込先

\_\_\_\_\_



学 校 名	和歌山工業高等専門学校	担当教員名		⑨
学 科 名	(学 科・専 攻)	学 年	第 学 年	
ふりがな		生 年 月 日	平成	年 月 日生
氏 名			(満 歳)	
ふりがな	〒			
現 住 所				
携帯電話番号	<small>※携帯電話を所持していない場合自宅でも構いません</small>			
パソコン等 メールアドレス	<small>※学校や企業とやりとりができる日常使用しているメールアドレスを記入してください</small>			
ふりがな		本人との 続柄		
保証人氏名		緊急時の 連絡先		
ふりがな	〒			
保証人住所				
宿泊希望の有無	有 ・ 無 <small>※宿泊について実習先から特段の指示がない場合、自分で手配することになります</small>			
備 考				

専攻科長印	
-------	--

### 選択科目履修届（登録書）

和歌山工業高等専門学校長 殿

工学専攻 第 学年 学級番号 番

氏名（自署）

#### 登録内容

選択	選択科目名	単位数	科目担当教員名	備考
	インターンシップ	2	専攻科長	下記のとおり

インターンシップ機関名： \_\_\_\_\_

インターンシップ先住所：〒 \_\_\_\_\_

Tel ( ) \_\_\_\_\_

インターンシップ期間： \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ~ \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

実習先までの交通手段： 徒歩 ・ 電車 ・ 単車 ・ その他( \_\_\_\_\_ )

※保険申請の際に必要な情報となります。

# 学外実習証明書

(インターンシップ参加学生へのフィードバック・評価表)

実習先名			
指導責任者 役職・氏名		指導者 役職・氏名	印
実 習 生	所属校 <sup>※</sup>	和歌山工業高等専門学校 ( 本科 / 専攻科 )	
	学科・専攻 <sup>※</sup>	知能機械工学科・電気情報工学科・生物応用化学科・環境都市工学科 / メカトロニクス工学専攻・エコシステム工学専攻	
	氏名		

※該当するところを囲んでください。

実習期間・時間 該当する時間に“○”を つけてください	年 月 日 ~ 月 日 合計 ( 30 時間以上 ・ 60 時間以上 ・ 67.5 時間以上 )
実習出欠状況	出席 日 欠席 日 遅刻 日 早退 日

※実習期間の合計時間は、本科履修科目の「学外実習」の単位認定で30時間以上、「県内インターンシップ」の単位認定で60時間以上、専攻科履修科目の「インターンシップ」の単位認定で67.5時間以上必ず必要となります。

下記事項にて当実習生の評価をお願いいたします。(該当する箇所に丸印を記入願います。)

実習中に評価できない項目については、空欄で結構です。

実習生の取組姿勢評価 (新入社員に期待するレベルを基準として)

	全くできていない ※1	あまりできていない	ほぼできている	非常にできている
時間や規律を守る	1	2	3	4
基本的礼儀 (あいさつ、言葉遣い)	1	2	3	4
報告、連絡、相談	1	2	3	4
積極的に取り組む姿勢 (意欲)	1	2	3	4

※1 全くできていないという評価の場合には、本校から再度指導を行いますので、該当するような場合にはなるべく早い段階で本人に警告して改善を促していただくとともに、本校担当者へご連絡ください。

<p>学生へのアドバイス (総評、評点の理由・具体例など)</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
---

※ご記入の上、実習した学生または本校担当者(メール: kyoumu@wakayama-nct.ac.jp, 電話 0738-29-8230, FAX0738-29-8254)

宛てにご送付願います。(※切:

)

## 専攻科インターンシップ報告書

クラス・番号・氏名	
研修先及び部署名	
所在地	
実習期間	月 日 ～ 月 日 実働 日間
①実習のテーマ・内容(どんなことを課題として取り組んだか。箇条書きやスケジュール表でも可。)	
②実習の結果(取り組みの経過や結果、結論などはどのようになったか。)	
③今回の実習で発見したこと、身につけたこと(上の課題そのものにとらわれず、広い意味で。)	
④この実習をふまえて、これからの高専生活や将来の進路選択にどのように取り組んでいくか、気づいたことや抱負をのべよ。	
⑤その他、今回の研修で特に感じたことがあれば記入してください。	

進路に関する手続き等

#### I. 進路希望調査 (12月ごろ)

- (1) 専攻科進路セミナーで学生へ用紙 (学 G-02 進路等) についてのアンケート) を配布→(2) 学生が記入し副専攻科長に提出→(3) 副専攻科長が取りまとめ
- (4-1) 副専攻科長がアンケート用紙のコピーと進路の一覧表を作成し、専攻科長へ提出
- (4-2) 副専攻科長が就職希望学生のアンケート用紙をコピーし、本科就職担当教員へ配付(4/1 までに)

#### II. 進路別の対応

##### A. 企業へ就職 (学校推薦) < 詳細は学生係の就職関連業務の流れ 2006.04.01 改正による >

- (1) 求人企業一覧公開 (<http://www1.wakayama-nct.ac.jp/simro/>) / 学生課が公開→(2) 推薦希望者が本科就職担当教員に申告 (学 G-03 進路申告書) →(3) 本科就職担当教員が推薦者を内定・学生に通知→(4) 学生が就職応募関係書類発行依頼書 (学 G-05 就職応募関係書類発行依頼書) に記入・本科就職担当教員と出身学科主任の認印をもらい、学生課へ提出→(5) 学生が学生課から応募関係書類・受験報告書用紙を受領→(6) 学生・学生課・就職担当教員が関係書類を作成・学生課へ提出→(7) 学生課 or 学生が受験先へ提出→(8) 本科就職担当教員・学生が受験先と連絡を取り合い、学生が受験 (複数回の場合あり) →(9) 受験結果を受験先 or 学生から本科就職担当教員が受領→(10) 受験結果を本科就職担当教員が報告 / 不可の場合、(2)-(4)へ→(11) 受験結果に関わらず学生が受験報告書を作成・学生課へ提出

##### B. 企業へ就職 (自由応募)

- (1) 受験希望者が受験先へ申込→(2) 学生が受験先と連絡を取り合い、受験 (複数回の場合あり) →(3) 受験結果を学生が受領→(4) 学生が受験結果を本科就職担当教員と副専攻科長へ報告→(5) 受験結果に関わらず学生が受験報告書を作成・学生課へ提出

##### C. 国家公務員 II 種・III 種

- (1) 募集要項一覧公開 (<http://www1.wakayama-nct.ac.jp/simro/>) / 学生課が公開→(2) 受験希望者が副専攻科長に申告 (学 G-03 進路申告書) →(3) 副専攻科長が受験希望者を取りまとめ・学生課へ回送→(4) 学生課から一括申込・受験用紙取り寄せ→(5) 学生課から学生へ受験用紙配布→(6) 学生・学生課が関係書類を作成・学生課へ提出→(7) 学生課が受験先へ提出→(8) 学生が受験 (複数回の場合あり) →(9) 受験結果を学生が受領→(10) 学生が受験結果を副専攻科長へ報告→(11) 受験結果に関わらず学生が受験報告書を作成・学生課へ提出

##### D. C 以外の公務員

- (1) 募集要項は原則受験者が取り寄せ。ただし、学校に届いている分は募集要項一覧で公開 (<http://www1.wakayama-nct.ac.jp/simro/>) / 学生課が公開→(2) 受験希望者が応募書類を作成・申込→(3) 学生が受験 (複数回の場合あり) →(4) 受験結果を学生が受領→(5) 学生が受験結果を副専攻科長へ報告→(6) 受験結果に関わらず学生が受験報告書を作成・学生課へ提出

##### E-1. 大学院進学 (協定締結校 [和歌山大学大学院, 早稲田大学大学院] への推薦)

- (1) 募集要項一覧公開 (<http://www1.wakayama-nct.ac.jp/simro/>) / 学生課が公開→(2) 推薦希望者が副専攻科長に申告 (学 G-04 大学院推薦申込書) →(3) 専攻科委員会が審議・推薦者を内定・学生に通知→(4) 学生が進学関係書類発行依頼書 (学 G-06 進学関係書類発行依頼書) に記入・専攻科長と副専攻科長の認印をもらい、学生課へ提出→(5) 学生が学生課から応募関係書類・受験報告書用紙を受領→(6) 学生・学生課・副専攻科長(副専攻科長から特別研究指導教員に依頼する場合あり) が関係書類を作成・学生課へ提出→(7) 学生課が受験先へ提出→(8) 学生が受験→(9) 受験結果を学生が受領→(10) 受験結果を学生が副専攻科長へ報告→(11) 受験結果に関わらず学生が受験報告書を作成・学生課へ提出

##### E-2. 大学院進学 (協定締結校 [大阪大学大学院] への推薦)

- (1) インターネットを体験する (募集 1 月下旬、実施 3 月下旬) →(2) TOEIC 本試験を受験する→以下 E-1 と同じ

##### F. 大学院進学 (協定締結校以外への推薦)

- (1) 募集要項は原則受験者が取り寄せ。ただし、学校に届いている分は募集要項一覧で公開 (<http://www1.wakayama-nct.ac.jp/simro/>) / 学生課が公開→(2) 推薦希望者が副専攻科長に申告 (学 G-04 大学院推薦申込書) →(3) 副専攻科長が専攻科長と協議し推薦者を内定・学生に通知→(4) 学生が進学関係書類発行依頼書 (学 G-06 進学関係書類発行依頼書) に記入・専攻科長と副専攻科長(副専攻科長から特別研究指導教員に依頼する場合あり) が関係書類を作成・学生課の認印をもらい、学生課へ提出→(5) 学生が学生課から受験報告書用紙を受領→(6) 学生・学生課・副専攻科長(副専攻科長から特別研究指導教員に依頼する場合あり) が関係書類を作成・学生課へ提出→(7) 学生課が受験先へ提出→(8) 学生が受験→(9) 受験結果を学生が受領→(10) 受験結果を学生が副専攻科長へ報告→(11) 受験結果に関わらず学生が受験報告書を作成・学生課へ提出

##### G. 大学院進学 (学力)

- (1) 募集要項は原則受験者が取り寄せ。ただし、学校に届いている分は募集要項一覧で公開 (<http://www1.wakayama-nct.ac.jp/simro/>) / 学生課が公開→(2) 学生が進学関係書類発行依頼書 (学 G-06 進学関係書類発行依頼書) に記入・専攻科長と副専攻科長の認印をもらい、学生課へ提出→(3) 学生が学生課から受験報告書用紙を受領→(4) 学生・学生課・副専攻科長(副専攻科長から特別研究指導教員に依頼する場合あり) が関係書類を作成・学生課へ提出→(5) 学生課が受験先へ提出→(6) 学生が受験→(7) 受験結果を学生が受領→(8) 受験結果を学生が副専攻科長へ報告→(9) 受験結果に関わらず学生が受験報告書を作成・学生課へ提出

#### III. 求人企業・大学院の学生対象説明会

- (1) 学生課で受付 / 開催の可否は専攻科長判断→(2) 学生課が掲示により学生に案内 / 掲示した旨を専攻科長・副専攻科長にメール通知→(3) 学生課が説明会場準備→(4) 説明会開催→(5) 学生課が説明会場片付け

進路希望アンケート（専攻科生用）

クラス・番号		進路	就職(民間企業、公務員) 大学院進学 自営業 その他
ふりがな 氏名		志望進路先	第1志望： 第2志望： 第3志望： (就職：工場求職の場合は工場名、公務員希望は職種を記入 進学：学部・学科名まで記入)
生年月日		就職の場合は 志望職種	1. 製造 2. 設計 3. 研究開発 4. 生産技術 5. 保守管理 6. 営業技術 7. ソフトウェア開発 8. システムエンジニア 9. サービスエンジニア 10. 営業・販売 11. 公務員 12. その他( )
現住所 (寮, 下宿, 自宅)	〒	進学の場合は 志望分野	1. 機械系 2. 計測制御系 3. 金属材料系 4. 電気・電力系 5. 電子・デバイス系 6. 情報系 7. 物質系 8. 生物系 9. 土木系 10. 建築系 11. 環境系 12. 都市計画系 13. その他( ) 5行程度の文章書き
緊急時の連絡先	Tel: 携帯電話等、連絡を取れる方法を記入してください。	第1志望先の 志望動機	
メールアドレス			
帰省先	〒		5行程度の文章書き
資格・特技	Tel:	私のセールス ポイント	
趣味			
アルバイト		その他 特記事項	(例えば、海外勤務を希望など)

令和 年 月 日提出

提出者 クラス学級番号\_\_\_\_\_

氏名\_\_\_\_\_

専攻科長 殿

## 大学院推薦申込書

私は、下記の大学院への推薦入試受験を希望しています。つきましては、学校推薦をして頂きますよう申請致します。

記

大学院名	
研究科名	
専攻名等	
願書提出〆切日	
試験日	
推薦を希望する理由	
自己PRのために調査書等に記載を希望する事項（資格等）	
本件に係る学生連絡先	

No.

**これは見本。用紙は学生課で**

学科主任	就職担当

## 就職応募関係書類発行依頼書

発行依頼書提出日	年 月 日 ( )			
発行依頼者	学年 年 工学科・専攻 出席番号 よみがな 氏名			
応募先会社名等	求人票番号	会社名等 (正式名称)		
応募先会社等への提出書類	<input type="checkbox"/> 推薦書 (高専所定用紙)		推薦書受領日	
	<input type="checkbox"/> 成績証明書 (本科) (高専所定用紙)		成績証明書受領日	
	<input type="checkbox"/> 成績証明書 (専攻科) (高専所定用紙)			
	<input type="checkbox"/> 卒業 (見込) 証明書 (高専所定用紙)		見込証明書受領日	
	<input type="checkbox"/> 修了 (見込) 証明書 (高専所定用紙)			
	<input type="checkbox"/> 健康診断証明書 昭和・平成 年 月 日生		<input type="checkbox"/> 高専所定用紙 <input type="checkbox"/> 会社指定用紙	健康診断証明書受領日
	<input type="checkbox"/> 履歴書	<input type="checkbox"/> 高専所定用紙 <input type="checkbox"/> 会社指定用紙		
<input type="checkbox"/> その他	書類名	記入した書類の学生課への提出予定日 月 日	その他書類受領日 月 日	
会社等の応募締切日	<input type="checkbox"/> 会社指定 <input type="checkbox"/> 随時	(随時の場合は、会社等への応募書類到着希望日を記入してください) 年 月 日 ( )		
応募書類の会社等への提出方法	<input type="checkbox"/> 学生課から会社等へ郵送してください。		高専発送日 (普通・速達・翌10) 電話連絡日	
	<input type="checkbox"/> 学生本人が会社等へ持参します。	下記の日時に学生課窓口で書類を受け取りに来ますので、ご準備願います。 年 月 日 ( ) 時 分		

※ 発行依頼者は**太枠**の中を記入し、学科主任・就職担当印を貰ってから学生課へ提出してください。その際に、履歴書やその他書類の正式な用紙を受け取ってください。  
受験報告書は受験後 1 週間以内、受験結果報告書は結果が判り次第、学生課へ提出してください。

# これは見本。用紙は学生課で

No. \_\_\_\_\_

## 進学関係書類発行依頼書

専攻科長	副専攻科長

年 月 日

専攻 番

フリガナ

氏名

生年月日 平成 年 月 日

出願に伴う必要書類の発行をお願いします。

出願学校名	大学院		一覧表 整理番号
	研究科	専攻	
区分	推薦 ・ 学力 (どちらかに○をしてください)		
願書受付期間	月 日～ 月 日 → 必着・消印有効		
必要書類	該当項目にチェックし、用紙の種類に○をしてください。 <input type="checkbox"/> ①推薦書 → 大学所定用紙・任意用紙 <input type="checkbox"/> ②調査書 → 大学所定用紙・任意用紙 <input type="checkbox"/> ③成績証明書 → 大学所定用紙・任意用紙 <input type="checkbox"/> ④修了見込証明書 → 大学所定用紙・任意用紙 <input type="checkbox"/> ⑤ _____ <input type="checkbox"/> ⑥ _____ ※ 大学所定用紙の場合は用紙を添付してください。		
現住所	〒 _____ 現住所 _____ _____ 本籍地 携帯電話番号 _____		

1. 募集要項は各自で取り寄せてください。
2. この用紙は、**願書受付開始日の2週間前までに学生課教務係に提出**してください。(提出が遅れると必要書類を作成できない場合があります。)
3. 所定用紙(推薦書、調査書、健康診断書等)は必ず添付してください。
4. 願書等その他出願書類(検定料を含む)は、**願書受付開始2日前に教務係窓口まで持参**してください。発送は教務係が行います。(発送に関する郵便切手は不要ですが、受験票返信用の切手は各自で用意してください。また、出願書類の発送は、出願書類受領翌日になります。)
5. 出願書類のチェックは教務係では行いませんので各自責任を持って行ってください。



メカトロニクス工学専攻 \_\_\_\_\_年度入学 氏名\_\_\_\_\_

**これは見本 WEBで実施します**

学習教育目標	科目	学年	必・選	単位	選択の有無	学習・教育目標の達成度の自己判定 5: 80%以上の達成度 4: 70~79%の達成度 3: 60~69%の達成度 2: 50~59%の達成度 1: 49%以下の達成度	その理由や反省点等あれば記入してください。	
(A) 和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したものづくりの考え方を理解し説明できる。	環境アセスメント	専1年	選択	2		5 4 3 2 1		
	現代アジア論	専2年	選択	2		5 4 3 2 1		
	技術者倫理	専2年	必修	2		5 4 3 2 1		
(B) 社会のニーズおよび地球環境に配慮したデザイン能力を身につけて技術開発計画を立案でき、長期的な視野に立って自己研鑽を継続できる。	工学特別実験	専1年	必修	4		5 4 3 2 1		
	特別研究Ⅰ	専1年	必修	4		5 4 3 2 1		
	特別研究Ⅱ	専2年	必修	10		5 4 3 2 1		
	創造プログラミング	専2年	選択	2		5 4 3 2 1		
(C) 自主的・継続的な学習を通じて、自己の専門分野で深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身につける。	(C-1) 自然科学・情報技術に関する基礎的素養を有し、専門分野での問題解決のためにそれらを駆使できる能力を身につける。	数理工学	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		数理統計学	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		数値計算・解析法	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		量子力学	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		線形代数	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		情報理論	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		生産工学	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		環境化学工学	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		環境分析	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		センサー工学	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		熱流体工学	専2年	選択	2		5 4 3 2 1	
	物性物理	専2年	選択	2		5 4 3 2 1		
	環境マネジメント	専2年	選択	2		5 4 3 2 1		
	(C-2) それぞれの専門分野に関する深い学問的知識と実験・実習で得た多くの経験を持ち、それらを問題解決のために応用できる能力を身につける。	パワーエレクトロニクス特論	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		精密加工学	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		信号処理理論	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		材料科学	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		応用エネルギー工学	専1年	選択	2		5 4 3 2 1	
		計測制御工学	専2年	選択	2		5 4 3 2 1	
		応用電子回路	専2年	選択	2		5 4 3 2 1	
		情報伝送工学	専2年	選択	2		5 4 3 2 1	
	(C-3) 長期的視点に立ち、計画的に継続して自らの能力を向上させようとする習慣とそれを実現する能力を身につける。	機能材料学	専2年	選択	2		5 4 3 2 1	
		ロボット工学	専2年	選択	2		5 4 3 2 1	
インターンシップ		専1年	選択	2		5 4 3 2 1		
工学特別ゼミナール(1年次)		専1年	必修	2		5 4 3 2 1		
(D) 自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。	工学特別ゼミナール(2年次)	専2年	必修	2		5 4 3 2 1		
	時事英語	専1年	必修	2		5 4 3 2 1		
	実用英会話	専1年	必修	2		5 4 3 2 1		
	テクニカルライティング	専1年	選択	2		5 4 3 2 1		
	ビジネスコミュニケーション	専1年	選択	2		5 4 3 2 1		
	工学特別ゼミナール(1年次)	専1年	必修	2		5 4 3 2 1		
	工学特別ゼミナール(2年次)	専2年	必修	2		5 4 3 2 1		
特別研究Ⅰ	専1年	必修	4		5 4 3 2 1			
特別研究Ⅱ	専2年	必修	10		5 4 3 2 1			

特別研究成績評価細目(100点法による)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
実験計画を立て、その計画に沿って研究を進めることができる(B-e)				
研究に関連する資料・情報を収集・活用できる(B-h)				
研究データを収集・整理、問題点を分析し、解決策を考察できる(B-d(2)c)				
研究成果を整理して成果報告のための資料を作成できる(B-d(2)b)				
研究成果を発表し、討議できる(D-f)				

満足度(100点法による)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
専攻科入学後から現時点までの専攻科における学習や研究にどの程度満足していますか				

エコシステム工学専攻 \_\_\_\_\_年度入学 氏名\_\_\_\_\_

**これは見本 WEBで実施します**

学習教育目標	科目	学年	必・選	単位	選択の有無	学習・教育目標の達成度の自己判定					その理由や反省点等あれば記入してください。
						5	4	3	2	1	
(A) 和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したものづくりの考え方を理解し説明できる。	環境アセスメント	専1年	選択	2		5	4	3	2	1	
	現代アジア論	専2年	選択	2		5	4	3	2	1	
	技術者倫理	専2年	必修	2		5	4	3	2	1	
(B) 社会のニーズおよび地球環境に配慮したデザイン能力を身につけて技術開発計画を立案でき、長期的な視野に立って自己研鑽を継続できる。	工学特別実験	専1年	必修	4		5	4	3	2	1	
	特別研究Ⅰ	専1年	必修	4		5	4	3	2	1	
	特別研究Ⅱ	専2年	必修	10		5	4	3	2	1	
	創造プログラミング	専2年	選択	2		5	4	3	2	1	
(C) 自主的・継続的な学習を通じて、自己の専門分野で深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身につける。	(C-1) 自然科学・情報技術に関する基礎的素養を有し、専門分野での問題解決のためにそれらを駆使できる能力を身につける。	数理工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		数理統計学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		数値計算・解析法	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		量子力学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		線形代数	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		情報理論	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		生産工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		環境化学工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		環境分析	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		センサー工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		熱流体工学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
	物性物理	専2年	選択	2		5	4	3	2	1	
	環境マネジメント	専2年	選択	2		5	4	3	2	1	
	(C-2) それぞれの専門分野に関する深い学問的知識と実験・実習で得た多くの経験を持ち、それらを問題解決のために応用できる能力を身につける。	パワーエレクトロニクス特論	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		精密加工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		信号処理理論	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		材料科学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		応用エネルギー工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		計測制御工学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
		応用電子回路	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
		情報伝送工学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
		機能材料学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
		ロボット工学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
	(C-3) 長期的視点に立ち、計画的に継続して自らの能力を向上させようとする習慣とそれを実現する能力を身につける。	インターンシップ	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		工学特別ゼミナール(1年次)	専1年	必修	2		5	4	3	2	1
		工学特別ゼミナール(2年次)	専2年	必修	2		5	4	3	2	1
(D) 自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。	時事英語	専1年	必修	2		5	4	3	2	1	
	実用英会話	専1年	必修	2		5	4	3	2	1	
	テクニカルライティング	専1年	選択	2		5	4	3	2	1	
	ビジネスコミュニケーション	専1年	選択	2		5	4	3	2	1	
	工学特別ゼミナール(1年次)	専1年	必修	2		5	4	3	2	1	
	工学特別ゼミナール(2年次)	専2年	必修	2		5	4	3	2	1	
	特別研究Ⅰ	専1年	必修	4		5	4	3	2	1	
特別研究Ⅱ	専2年	必修	10		5	4	3	2	1		

特別研究成績評価細目(100点法による)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
実験計画を立て、その計画に沿って研究を進めることができる(B-e)				
研究に関連する資料・情報を収集・活用できる(B-h)				
研究データを収集・整理、問題点を分析し、解決策を考察できる(B-d(2)c)				
研究成果を整理して成果報告のための資料を作成できる(B-d(2)b)				
研究成果を発表し、討議できる(D-f)				

満足度(100点法による)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
専攻科入学後から現時点までの専攻科における学習や研究にどの程度満足していますか				

令和2年度 専攻科授業担当

科目	担当	1年生		2年生	
		前期	後期	前期	後期
時事英語	森岡隆	○			
実用英会話	マージュ		○		
現代アジア論	赤崎雄一			○	
ビジネスコミュニケーション	和田茂俊	○			
テクニカルライティング	宮本克之		○		
技術者倫理	森岡隆				○
数理統計学	後藤多栄子(非常勤)				
数理工学	伊勢昇			○	
線形代数	濱田俊彦	○			
数値計算・解析法	平岡和幸	○			
量子力学	山東篤		○		
物性物理	孝森洋介	○			
情報理論	直井弘之			○	
センサー工学	謝孟春		○		
応用エネルギー工学	岡本和也	○			
環境分析	竹下慎二		○		
環境化学工学	林純二郎		○		
環境アセスメント	森田誠一	○			
創造プログラミング	霧巻峰夫		○		
環境マネジメント	謝孟春			○	
	平野廣佑				○

科目	担当	1年生		2年生	
		前期	後期	前期	後期
計測制御工学	徳田将敏(非常勤)		○		
パワーエレクトロニクス特論	山吹巧一		○		
ロボット工学	津田尚明			○	
材料科学	榎原憲蔵	○			
機能材料学	山口利幸			○	
精密加工学	機械科主任		○		
熱流体工学	大村高弘			○	
生産工学	北澤雅之、佐々木俊明(非常勤)		○		
信号処理理論	岩崎宣生		○		
応用電子回路	岡本和也			○	
情報伝送工学	岩崎宣生			○	
反応有機化学	野村英作		○		
化学反応論	河地貴利			○	
有機機能材料	綱島克彦			○	
遺伝子工学	楠部真崇	○			
細胞工学	米光裕		○		
分離工学	岸本昇		○		
生体高分子	土井正光			○	
応用材料工学	三岩敬孝	○			
応用地盤工学	林和幸		○		
建設設計工学	辻原治			○	
社会基盤計画学	伊勢昇			○	
水圏工学	小池信昭		○		
地域環境工学	青木仁孝			○	
複合構造工学	山田幸			○	